

## 第2のしるし ヨハネによる福音書 4:43-54

1. さて、二日の後、イエスはここを去って、ガリラヤへ行かれた。イエスご自身が、「預言者は自分の故郷では尊ばれない」と証言しておられたからである。(4:43-45)
  - a. イエスがガリラヤに戻られた主な理由は、ユダヤの地ではイエスのミニストリーが必要以上に注目を浴びていたからである。ご自分の故郷では受け入れられないのでガリラヤでは大騒ぎになる心配がなかった。
  - b. イエスが育った場所（ナザレ）が、彼を拒否する最初の場所になったことは不幸なことである。イエスの故郷がそうであったように、ある人のことを完全にわかっていると思いつむのは危険である（ルカ 4:14-30）。
  - c. ただしここではイエスの民（ガリラヤ人）はイエスを拒否したわけではない（45節）。しかしイエスはナザレには戻らずカナ（ナザレの近く）に行かれた（46節）。
  
2. この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところへ行き、下って来て息子をいやしてくださるように願った。息子が死にかかっていたからである。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」その王室の役人はイエスに言った。「主よ。どうか私の子どもが死なないうちに下って来てください。」(4:47-49)
  - a. この役人の願いにはどこか信仰が欠けている部分があったので、イエスの返事は否定的なものであった。
  - b. しるしや不思議は信じるための大きな要素ではあるが、私たちの信仰はそれだけに頼ってはいけない。もし私たちがただ大きなしるしや不思議を行う人物に信仰をおくなら、簡単にだまされてしまう。私たちの信仰は、神の外側に出る力だけではなく、神との関係、そして内側のご性質によるものでなければならない。私たちは神の偉大な愛ゆえに神に信仰をおくのである。
  - c. 役人がイエスのことを“sir”と呼んでいることから、この段階では彼はイエスをメシヤではなく単に奇跡を行う人だと認識していることがわかる。
  
3. イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われたことばを信じて、帰途についた。彼が下って行く途中、そのしもべたちが彼に出会って、彼の息子が直ったことを告げた。そこで子どもがよくなった時刻を彼らに尋ねると、「きのう、第七時に熱がひきました」と言った。(4:50-52)
  - a. この役人はイエスのことばをそのまま信じた。彼はイエスに来てくださいと懇願したが、イエスはことばをかけたただけであった。
  - b. イエスから「あなたの息子は直っています」ということばをかけられただけで帰らなければならなかった役人はさぞかし不安だったであろう。彼は翌日になってイエスのことばが本当だったことを知るのである。
  - c. 私たちの人生においても、神様から約束をいただきながら空白の期間があり、イエスさまの言われたことが本当なのかかわからない時期がある。特に大きな空白期間は、この地上での生活と、後に来る御国の約束の間であろう。私たちはイエスさまの約束を信じて生きているだろうか。
  
4. それで父親は、イエスが「あなたの息子は直っている」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と彼の家の者がみな信じた。イエスはユダヤを去ってガリラヤに入られてから、またこのことを第二のしるしとして行われたのである。(4:53-54)
  - a. 役人は、彼の息子がいやされたのはイエスのことばによるものだと信じている。彼は息子のいやしとイエスの宣言は単なる偶然だとは思わなかった。私たちも今の時代、神が祈りに答えてくださったのは偶然だと考えないように気を付けなければならない。
  - b. これはイエスがガリラヤで行われた第2のしるしである。公生涯の中で行った2番目ではないが、特に大きなしるしとして記録されたものである。最初のしるしは水をぶどう酒に変えられた。2番目はことばによって息子をいやしたことである。
  - c. ヨハネはこの奇跡がどのような意味を持つのか、ということは明らかにしていない。しかし、この話から学べることは、私たちはイエスを信じ、イエスのことばをそのまま受け入れてよい、ということである。イエスのことばは無効にはならない。イエスの約束はすべて成就する。この役人の場合がそうであったようにすぐには目に見えないかもしれないが、すでにしるしは行われたと信じることができる。ただそれが確認できるまでに少し時間が必要な時もある。